

民族衣装から考える多文化共生

22

所 属	公益財団法人 名古屋国際センター	実践者	太田 梨理香
対 象	中学校 1 年生 6 名	実践日	2024 年 1 月 24、25 日、2 月 1 日
実践教科	名古屋国際センター3F リソースルーム	時間数	1 時間 × 3 回
ねらい	・ 民族衣装から文化の多様性を知る。 ・ 名古屋に住む人々が幸せに暮らすために大切なことが何かを考える。		
実践内容	時間	プログラム	備 考
	10 分 10:10	1. アイスブレイク ★行動や様式には理由があると気が付く ・ 「制服の好きなところ、嫌いなところについて話す」	A4 用紙、ペン
	7 分 10:17	2. 自身の服装について振り返ってみよう！【タイムライン】 ★服には外的要因が影響していると気が付く ・ 昨日一日の服装、なぜそれを着たのか書き出す	A4 用紙、ペン
	18 分 10:30	3. 民族衣装について知ろう！ ★民族衣装が、文化と関連がありその形になったと気づく ・ 「もしも・・・あなたが●●に住んでいたら」【シミュレーション】 ・ 実際に民族衣装を紹介してその理由を考える【フォトランゲージ】	A4 用紙、 モンゴル民族衣装、 写真
	10 分 10:40	4. 文化や環境が異なると？ ★民族衣装と同様に文化が異なると、異なるもの・同じものについて 考え、違いを尊重する大切さに気が付く ・ 同じもの・違うものを比較して考える【対比】 ・ 全体で共有【ポップコーン】	A4 用紙、ペン
	15 分 10:50	5. 誰もが幸せに暮らすためには ★異なる文化の人が幸せに暮らすためには何が大切か考える ・ 名古屋市の在住外国人について説明 ・ 誰もが幸せに暮らすために大切だと思うことを書きだす	A4 用紙、ペン
	5 分	6. まとめ 文化によって服装や考え方はさまざまであり、共に幸せに暮らして いくためには、互いに尊重しあうことが必要	
成 果	身近な衣服をテーマにすることによって、多様性や多文化共生について知ってもらうこと、更に後の施設見学や事業紹介に繋がる流れができた。（本講座は当センター社会見学と連携させて行った。）また、ただ話をするだけでなく参加型にすることにより、より参加者に興味関心を持たせることが出来たと感じる。		
課 題	「知る・気づく・考える・行動する」までをプログラムとして組んでいたが、「考える・行動する」にしっかりと時間をとることが出来なかった。今後、「考える・行動する」までしっかりとカバーできるような開発教育を活かした講座も実施してみたい。		
備 考	子どもニック・ニュース 2023 冬号		